

表題：瑞穂町協働フォーラム2019 概要

主催

瑞穂町・瑞穂町協働のまちづくり推進委員会

日時・場所

平成31年2月24日（日曜日） 午前10時30分～午後3時30分
郷土資料館けやき館

出席者数

	参加人数
一般参加者	59人
瑞穂町協働のまちづくり推進委員	8人
事務局（部課長含む）	5人
合計	72人

配付資料

〈フォーラム当日資料〉

- 1 「瑞穂町協働フォーラム2019」チラシ
- 2 協働事例紹介レジュメ（小松委員、中沢副委員長、井上委員）
- 3 「瑞穂町協働フォーラム2019」アンケート

〈各種お知らせ、ちらし等〉

- 4 町内会・自治会に加入しませんか（地域課）
- 5 さやま花多来里の郷（建設課）
- 6 山野草ウィーク（郷土資料館）
- 7 けやき館・耕心館パンフレット（郷土資料館）
- 8 瑞穂町の平地林を守る会（推進委員）
- 9 ヒップファミリークラブ（推進委員）
- 10 高根市年間スケジュール（推進委員）
- 11 ボランティアセンターみずほ概要（推進委員）
- 12 牛乳パックや使用済み切手を集めています（推進委員）
- 13 障がい者の理解を深める講座（推進委員）
- 14 バスケットボールフェスティバル（推進委員）

開会挨拶

(司会・小山委員) 皆さん、こんにちは。それでは時間になりましたので、只今から瑞穂町協働フォーラム2019を開催いたします。本日は、お忙しいところフォーラムにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます、瑞穂町協働のまちづくり推進委員の小山と申します。よろしくお願いいたします。

協働フォーラム2019は、「郷土資料館けやき館」及び「耕心館」で開催しております、「みずほ雛の春まつり」とのタイアップ事業ということで、郷土資料館けやき館のご協力のもと、瑞穂町協働のまちづくり推進委員会と、その事務局であります町との協働で開催しております。それでは、瑞穂町協働フォーラム2019の開会挨拶を、瑞穂町協働のまちづくり推進委員会香取委員長よりお願いいたします

<開会挨拶>

(香取委員長) おはようございます。本日はお忙しい中、瑞穂町協働フォーラム2019にお越しいただき、誠にありがとうございます。

私は瑞穂町協働のまちづくり推進委員会委員長を務めさせていただいております香取幸子と申します。よろしくお願いいたします。

平成25年に瑞穂町の協働を考える会議がスタートして、「瑞穂町協働宣言」を策定し、その協働宣言を実現するために提言書を町長に提出しました。そして、平成27年には、「瑞穂町協働のまちづくり推進委員会」が発足し、協働をより多くの町民の皆様にご存知いただくための方法を模索しながら、実践していくところであります。この協働フォーラムもひとつの方法で、今回で4回目となりました。協働とはどんなことだろうと、疑問を持たれる方がたくさんいらっしゃると思います。難しく考えずに、協働とは、課題を見つけ、それを解決するために町と協力することです。この後の活動事例発表を聞き、協働を少しでも理解していただければ幸いです。そして、けやき館1階には、活動紹介ブースや展示物を展開しておりますので、講演後ご覧ください。

私も協働のシステムを利用して元狭山コミセンでサロンを立ち上げて、皆さんと一緒に楽しんでおります。何か困った時とか、悩んだ時に、どうやって活動を広げていこうかと立ち止まった時に地域課に行って、相談をしていただくと、他の課とつないでくれたり、役場以外の方とつないでくれたりする職員がいますので、ぜひ協働という活動を利用して、皆さんの生活が豊かになる方法を見つけていただきたいと思います。

最後になりましたが、私たち推進委員の活動において、様々なサポートをしていただいた瑞穂町地域課の職員に心から感謝を申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

(司会・小山委員) 香取委員長ありがとうございました。それでは、これより、瑞穂町協働のまちづくり推進委員会、小松委員による活動事例発表を始めさせていただきます。小松委

員、登壇願います。

小松委員は、このフォーラムに参加した事がきっかけで、協働の推進委員となり、スポーツによるまちづくりを中心に活躍されています。また、瑞穂町体育協会バスケットボール連盟の代表でもあり、今回の講演もバスケットボールのイベントに関する内容となっています。

それでは「地域特性を活かしたまちづくり、瑞穂・横田バスケットボールフェスティバル」の活動事例発表です。小松委員よろしくお願いたします。

協働事例発表（小松委員）

（小松委員）皆さん、こんにちは。只今、ご紹介に預かりました瑞穂町バスケットボール連盟の小松と申します。僭越ながら、本日は協働フォーラムのトップバッターとして協働事例をご紹介させていただきます。何分にも、こういう場所で喋ることが少なく不慣れな部分が多々あるかと思いますが、ご容赦いただきながら、お聞きいただければと思います。短い時間ですが、よろしくお願いたします。

早速、バスケットボール連盟が行った協働事例を発表させていただきたいと思います。今回の協働事例の題名ですが、「地域特性を活かしたまちづくり、瑞穂横田友好バスケットボールフェスティバル」ということで、こちらのイベントは昨年度開催させていただきました。瑞穂町と横田基地の友好を図る、子どもたちの親善試合のバスケットボールのイベントとなります。こちらは協働という仕組みを使って開催させていただいたわけでございます。ちなみに、協働という言葉聞いたことがありますか？なかなか協働という言葉は聞き慣れない部分があると思いますので、協働という仕組みについて、ご説明させていただくところからスタートさせていただければと思います。

本日の流れですが、僕が簡単に協働の説明と事例について触れて、その後、お二方が協働事例を用いて、より詳しく説明させていただきます。協働とは何か、なぜ必要なのか、具体的にはどんなものなのか、というところを話していきます。その前に、簡単に自己紹介させていただきます。

名前は小松揚明（こまつたかひろ）と申します。1981年8月8日生まれで37歳です。結構いっているなと思うかもしれませんが、体育協会では若手のほうです。瑞穂二中出身でバスケットボールのコーチが職業です。瑞穂町では、バスケットボール連盟を設立しまして、笑夢（えむ）スポと連携し、町内のバスケットボール教室や授業を様々行っています。次に経歴ですが、今までバスケットボールで仕事をしてきまして、一昨年は日本代表のテクニカルスタッフの仕事もしていました。昨日は日本代表の試合がニュースで放送されていて、バスケットボールが盛り上がってきていますので、バスケットボール連盟も負けずに頑張っていきたいと思います。ちなみにバスケットボール連盟は活動していくなかで、ミッションを持ってやっています。バスケットボールで瑞穂を元気にするという合言葉を使って、活動しています。ただスポーツをするだけでなく、まちづくりに貢献する団体が在りたいということで、様々なイベントに協力しています。

さて、本題ですが、協働とは何か、ということですね。「きょうどう」と漢字で書くと、3つほど思い浮かぶと思います。「共同」「協同」「協働」です。3つの違いはご存知でしょうか。

「共同」とは、ともに同じであること、共同浴場なんかに使います。

「協同」とは、よく使うのは協同組合などで、同様に協力すること。

「協働」とは、協力して働くこと。

「協同」と「協働」は協力することは一緒に、何か行動するところも同じです。「協同」は同じように行動すること、対して、「協働」は働き方が違っていいわけです。そんなような意味の違いがありまして、僕らがやっているものは「協働」になります。これをまちづくりの観点で考えると、協力して働くことにより、より良いまちづくりを行うこと。実はこれを協働の推進委員として推し進めているところになります。ちなみに、瑞穂町でも正式な施策となっていて、平成23年の第4次長期総合計画書に記載されていて、それに基づいて、平成26年に瑞穂町協働宣言というのが制定されます。宣言の重要な部分を読みますと、「先人が残してきた自然や人々が育んできたさまざまなつながりを大切に守り、未来に向け瑞穂町を育てていくためにも、私たちはみんなで考え、汗を流し、それぞれができることを分かち合い、ひとつになることで、協働のまちづくりを実現します」と書いてあります。このように瑞穂町でもしっかりとした施策として協働が推し進められています。

さて、より良いまちづくりとは、どうしたらいいのかというのを、今度は僕らが考えていかなければならない。より良いまちづくりのために協働を使って何かできないかということを考えていかなければならないところだと思っています。

何かしようとしても、現状がわからなければ、何もしようがないということで、瑞穂町の現状を簡単に考えてみようかなと思っています。瑞穂町は様々な社会的問題を抱えています。これは、瑞穂町だけではなく、日本全国で様々な問題を抱えています。どんな問題を抱えていると思いますか。人口減少、地域コミュニティの希薄化、商業衰退、少子高齢化などといったようなことが起こってきています。全国でも少子高齢化や人口減少などは特に騒がれているところです。それを裏付けるデータとして、消滅可能性都市というのが示され、2040年になったら、896の市区町村が523になってしまうという危機にあります。瑞穂町もその危機にさらされるかもしれない、ということになっています。瑞穂町が様々な問題を抱えている中で、それを解決するためにバスケットボール連盟が少しでもお力になればと考えている次第です。ちなみに瑞穂町の人口がどれくらいかわかりますか。3万人です。今年の初めで3万3千人です。瑞穂町は人口が増えても減ってもないので、人口減少がそこまで起こっていないわけで、誇っている部分だと思います。ただ、高齢者が増加していて、子どもたちが減ってきています。というように、人口は変わっていないんですが、少子高齢化は進んでいるということになります。諸先輩方が頑張ってくださいているんですが、子どもたちが増えていないというのは、この町の問題かなと思っています。

続いて、東京都の話ですが、2025年には4人に1人が高齢者になるという試算が出ています。当然瑞穂も今のままでは、そうなるであろうと推測されます。まとめますと、瑞穂町は少子高齢化現象であり、様々な施策で止めることもできますが、もし子どもたちが少なく高齢者が多くなる状況を打開するためには、他の方法を考えなくてはいけないとい

うことです。瑞穂町バスケットボール連盟としては、これに対して、転出者を減らして転入者を増やしていくことを考えていければなと思っております。出生数が増えなくても、瑞穂町に入ってくる人が増えれば人口維持が可能なのではないかと思っています。そんな意味も含めて、瑞穂町は他の市区町村に比べてより魅力的な町であることが必要なのではないかと考えています。それに向けて、協働というものを行って、より魅力的な町になればと思いながら活動を行っています。

次に人口の関係を東京都で見たいと思います。全国の少子高齢化の人口減少に比べて、実は東京都だけを見ると人口が増えています。なんで東京都の人口が増えているのか、理由が思いつく方はいますか。それは、オリンピックに向けて外国の方の入国が増えてきています。震災があった時には一時的に減っていますが、基本的には年々増えています。ちなみに皆さんも外国の方が増えていると思当たる節があるんじゃないかなと思っています。これは一つのデータですが、インド料理屋の数が増えています。周りにカレー屋さんが増えたと思います。というように外国の方がたくさん日本に移住されています。インド料理屋の登録件数が東京だけ爆発的に増えています。東京都の人口増加の背景には、外国の方がたくさん日本に来ている、つまりは、日本人だけではなく外国人にとっても魅力的な町である必要があるということです。グローバル社会の構築、ダイバーシティが求められていると考えています。

瑞穂町の事も考えていきますと、地域特性として横田基地の存在が思い浮かぶと思います。横田基地と一緒に何かできないかなと模索していましたが、アメリカ人なのでバスケットボールをこよなく愛しているということがあります。NBAが有名ですが、最近では日本人選手もNBAに出ることもあり、ニュースになることも多いかと思えます。バスケットボールで外国の方と関わることができれば良いかなと思いながら、昨年度まで活動を行っていました。ですが、なかなかイベントを開催するきっかけというものはなく、連盟を発足させてから数年、外国の方と接する機会がないまま、いろいろな活動を行っていたということになります。そんな中、突然、きっかけというものは訪れるもので、昨年度の協働フォーラムに参加して、外でシュートゲームをやっていたんですが、外国の方が来られて、唐突に一緒にバスケットやろうとなりまして、素性を調べてみると横田基地の整備軍の大佐であるということが判明しました。最初は普通の外国の方だと思って、軽くバスケしようと言っていたら、実は偉い方で後から恐縮してしまったということがありましたが、ロバートソン大佐と知り合うことができ、イベントをやろうという話になりました。僕の方は、半年後かな、1年後かなと思っていたんですが、外国の方はすぐやりたいということで、電話をしたら、1か月後にやろうと急に言われまして、急遽イベントをやることになりました。それが、今回のタイトルでもある「瑞穂・横田友好バスケットボールフェスティバル」ということになります。正直困りました、1か月では準備ができない、でもやりたいと思っていました。やりたいと思ったからには、様々準備が必要です。すぐにできるわけではなくて、外国の方をお呼びするとなるといろいろな問題が起こってきます。準備を進める中で、外国はボールの大きさが違ったりとか、いろいろな事情が違ったり、風習が違ったりして、正直困りました。特に、しっかりとしたイベントをするということで、会場の設営や集客をどうするか困ってい

まして、その中で自分たちで準備を進めていたんですけれども、自分たちではできないことを地域課に相談にいきました。それが協働の始まりとなります。もちろん推進委員をやっていましたが、協働という事例に対して、一個人として、連盟として相談に行くということで始まりました。

ここから具体的な協働の説明に入っていきますが、地域課の堂垣さんにも登壇いただいて、行政サイドの目線と僕ら住民サイドの目線というものを踏まえながら、説明させていただければと思っています。僕らの方はどう考えて協働すればいいのか、協働はどのように進むのか、対応してくれるのか、そういったところが説明できればなと思っています。この中にも、協働という仕組みを使って、様々な活動をされる方がいらっしゃると思います、その方に向けての目線の話になります。協働というものが具体的にどのように行われるかをご理解いただければと思います。住民サイドと行政サイドを分けていきたいと思っています。まず、僕らは自分たちで準備しました。人、お金、物の準備など、色々進めてきましたが、その中で椅子や用具が足りない、告知をどうしたらいいかということをお悩みました。それらを地域課に相談にいきました。地域課に相談に行った時、びっくりしまして、冷たくあしらわれるのかなどか思っていたら、非常に優しく出迎えていただいて、親身に話を聞いてくれて、具体的にどのように進めていくか相談に乗っていただきました。結果として、できる限りのご支援をいただいて、もちろん行政として、できることできないことあると思いますが、その中でできる限り一緒にまちづくりに取り組んでくれたというのが、非常にありがたかったことです。さらに、ここは覚えていただきたいのが、行政間の調整や窓口を一本化してくれて、問題解決に向けて活動していただきました。行政は様々な窓口があり、備品を借りるならこっち、告知をするならこっち、というように部署が分かれています、それを一つ一つ回ってイベントの説明などをしていくと、イベントが進んでいきません。地域課が窓口になって、調整を図ってくれたということが非常に協働の仕組みとしてありがたかったことになります。ここからは行政サイドの話を堂垣さんからしていただければと思います。

(事務局・堂垣) 代わらせてもらいました地域課の堂垣と申します。よろしくお願ひします。小松さんから協働提案を受けまして、そもそも協働って難しい言葉だなと皆さん思っているかと思うんですけれども、協働の説明を聞いただけでは、私も最初は理解することができませんでした。ですが、小松さんのように活動をしていくと、少しずつ分かっていくようなものになっていると思います。なので、今回は協働というものを簡潔に説明しますと、要するに、共通の目的を達成するために複数の組織や団体が協力して事業に取り組むこととなります。みんなで協力して、それぞれが出来ること、得意なことをやって、目的を達成しましょうということです。そして、協働は目的ではなく、手段ですというのは重要なことになっております。協働の説明はこの辺にしておきまして、中身に入っていきます。小松さんから協働事業の提案を受けまして、地域課として考えていたことを説明します。まず、窓口で小松さんのイベントがどのようなものなのか、誰がターゲットなのか、町にどんなことを支援してほしいのか、ということをお聞き取りします。そこで重要なことがありまして、町民である小松さんが主体性をもってしっかりと動いているか、イベントの内容が明確で町に何をしてほ

しいかがはっきりとしているイベントであるかどうか。また、町への要望ではなくて、町民が企画立案してイベントを進めようとしているかというところが重要になります。そこで、初めて町として何ができるか、どのように進めていくかなど、具体的な話に動いていきます。また、協働事業を分かりやすく理解するために、協働事業提案書を作成いたします。こちらは時間の都合上、割愛させていただきますが、要するにイベントの内容を記載するものとなっています。ここには、大事な部分がありまして、町に何をしてほしいかということをはっきりと書いていただくことが重要になってきます。実際に、このイベントではどうだったかと言いますと、町の役割としてチラシの掲示や机や椅子の配備、小松さんの方では、会場の確保や相手チームとの調整をしています。このように、町の役割と住民の役割が、しっかりと分かれて明確であることが重要であると言えます。今回のイベントを実施してみて、町として思ったことを書かせていただきましたが、一つ目として、町として協力できることできないことあるが、やってみようと思った時には相談に来ていただきたいと思っております。先程も申し上げましたが、協働で重要なことは、町と一緒に町民の方が自ら何かをやりたいと思うことです。二つ目として、協働事業として行うことが難しい場合はボランティア活動などからやってみること。何か自分でやってみる、始めてみるということが非常に大切かなと思っております。自分の興味のあることからやってみることで、それがまちづくりにつながっていけば協働になりますし、自分の活動が広がっていくことでまちづくりに貢献していただけることになれば、それは既に協働事業になっているというような考え方もいいと思います。三つ目は宣伝になってしまうんですが、協働事業に関するガイドラインをまとめまして、ブースにも展示していますので、興味がある方はご覧いただければと思います。事務局の説明は以上となります。最後にバスケットボールのイベントがどうなったかを小松さんの方から説明いただきたいと思っております。

(小松委員) 今のように、こちらの目線と行政の目線は全てが一緒というわけではありませんが、その中でお互いができることをやって協力していくことで、今回のイベントを行うことができました。結果は、やってよかったと正直思いました。日本の子と外国の子が抱き合っていて喜んでいて、このシーンを見た瞬間に、このイベントは成功したと確信しました。社会的な問題が様々ある中で、子供たちがスポーツを通じて境界を越えて、このような交流が起こることは素晴らしいことだと思っております。新聞にも掲載されました。というわけで、協働を終えての感想になりますが、やっていく中で住民が主体性を持って行動をしなくてはならない。ただ、行政に何かしてくださいということでは協働ではありません。また、問題が起こって困ったとき、住民がどう考えているのか、どう解決していきたいのか、それをまず考えることが非常に大切なこととなります。実際に協働を行ってみてのポイントは、住民の思うまちな未来と行政のできることをマッチングすることだと思っております。先程もお話したように、とにかく自分たちのできることと行政のできることを合わせて何かを一緒に作っていく、お互いできないことがある中で、できることを合わせてやるということが大切なのではないかと思います。最後に、協働を終えて思ったことですが、協働とはまちの未来を住民と行政がともに描くことができる最高のツールである、ということが協働なのではない

かと思いました。僕の発表は以上となります、ありがとうございました。

(司会・小山委員) 小松委員ありがとうございました。それでは、質疑応答に入りたいと思います。何か小松委員に質問がある方は挙手をお願いします。

<質疑なし>

(司会・小山委員) 外の方にバスケットゴールも出ていて、後ほどお楽しみいただけるかと思しますので、何かありましたら、その時にご質問していただければと思います。ありがとうございました。

(小松委員) 今年もこのイベントを3月17日に開催いたします、チラシがお手元の資料に入っていると思いますので、ご興味がある方はお越しいただければと思います。

(司会・小山委員) 続きまして、中沢副委員長の活動事例発表の準備をいたしますので、しばらくお待ちください。

お待たせいたしました。それでは、瑞穂町協働のまちづくり推進委員会中沢副委員長による活動事例発表を始めさせていただきます。中沢副委員長、登壇をお願いします。中沢副委員長は、ボランティア団体である西多摩マウンテンバイク友の会の代表であり、6年ほど前から様々な協働推進活動にご尽力いただいております。また、マウンテンバイクに関する情報誌やイベント等を通じ、様々な形で町の魅力をPRしていただいております。それでは、みんなで守ろう瑞穂町の平地林の活動事例発表です。中沢副委員長、よろしくお願いします。

協働事例発表 (中沢副委員長)

(中沢副委員長) 皆さん、こんにちは。私は、瑞穂の平地林を守る会の代表、中沢清と申します、よろしくお願いします。先程、小松さんから良いバトンをタッチしていただいて、私たちはどちらかと言うと、自分たちがやりたいことを行政の力を借りてやっていき、それをやっていくと最終的に様々な人にとってメリットになるということを活動を続けていく中で学んでいきました。今日は平地林の話と私自身の話を少し入れつつ進めていきたいと思いません、よろしくお願いします。

まず簡単に自己紹介いたしますと、私は2000年より瑞穂町に住みまして、サイクルショップ中沢ジムというマウンテンバイクを中心とした自転車店を経営しております。元々は足立区出身で、狭山丘陵や西多摩の自然環境が好きで、80年代後半から自転車を乗りに来ていました。結婚して店を出すということになり、出すのであれば瑞穂町、狭山丘陵の近くに出したいなということで、瑞穂町で開業することになりました。また、現在、瑞穂町協働のまちづくり推進委員会、きらめき回廊のルート整備部会を務めていて、今年度から瑞穂第四小学校のPTA会長も務めています。私の本業であるマウンテンバイクの愛好家によるボ

ランティア団体、西多摩マウンテンバイク友の会の会長もしております。こちらの写真は、娘と一緒に走っているもので、今日娘が見に来ると言っていたんですが、まだ来ていないようなので残念ながら見せてあげられないんですけど、狭山丘陵の平地で遊んでいるものです。皆さん、マウンテンバイクというと、山の中でスピードとかスリルを求めて、暴走しているんじゃないかと思われる方もいらっしゃると思うんですけど、それは昔の話です。今はスキー場のサマーシーズンに専用コースができますので、そこで走ります。また、山を借りてマウンテンバイクのための道を切り開いた専用コースがありますので、そちらで思い切りマウンテンバイクの走りの楽しさを味わっています。西多摩の山や狭山丘陵をどう走っているかと言いますと、歩いている方と同じような感覚なんですね。散歩するような感覚で、自転車というツールを使って、長い移動距離を走っています。自然に親しむことで、子どもからお年寄りまでいろいろな人が遊べるようなスタイルが西多摩にはあります。決して険しい山ではありません。私は娘と走るのが念願でして、自分の子どもとか、私自身が歳を取った時にも楽しめる環境を作っていきたいなと思っております。ショップやメディアを通じて、自然環境や利用者に配慮した形でのマウンテンバイクの親しみ方というものを伝えております。

私は協働フォーラムのモデル事業として、多くの方に協働とはどういうものなのかを平地林活動を通じて、第1回目からお伝えしていますが、当初は、フォーラムに向けての活動を単発的に行っていましたが、2017年からは毎月行うような定例活動になり、2018年は、この活動に加えて、平地林を整備していった先にどういった効果が得られるか、イベント的な楽しみ方を試験的にやっております。継続して活動していくことで四季折々の林の風景の移り変わりを楽しむことができます。春夏に整備をしっかりと行うことで、秋冬には光が差し込んで明るい林内になっております。平地林はどういったところかと言いますと、国道16号線とシクラメン街道と八高線に挟まれた場所にあり、1kmほどあり、幅は300m~400mあります。昔16号線の陸橋を通っていた時に、この林はなんだろうと思っていました。ちょっと寄ってみたところ、奥行き感があり、映画のワンシーンに出てくるような場所に感じました。入っていくと良い場所だけではなくて、不法投棄があったり、人の手が入らなくなってしまうと、活動して綺麗にしたいなという思いを持っていました。自身が関わっている西多摩マウンテンバイク友の会を通して、何か活動できないかなと考えておりました。

ここで、西多摩マウンテンバイク友の会について、お話します。2011年にボランティア登録しまして、登録の際には瑞穂町ボランティアセンターみずほで、たくさんアドバイスをいただきまして、ボランティア団体として立ち上げました。活動内容は、里地里山における森の整備活動や道普請、地域のごみ拾い、お祭りのお手伝い、多岐に渡って活動しております。また、自転車のマナーやルールに関する周知活動をしております。活動地域は瑞穂町、あきる野市、武蔵村山市など、そして狭山丘陵の野山北・六道山公園と狭山公園で活動しています。現在ではメンバーが280名ほど、1年間で80回活動して年間延べ1000人以上が活動しています。年齢層は幅広くて、未就学児から60代までいて、凄くバラエティに富んだ人たちが集まっている団体です。社会福祉協議会の災害ボランティアセンター設置訓練を2011年から行っていて、毎年協力させていただいています。私は瑞穂町の住民なん

ですが、メンバーは瑞穂町でない人もたくさんいるんですけど、この訓練に参加して、そこで得たものをそれぞれ各自で住んでいるまちで活かしてもらえないかなということで、マウンテンバイク友の会にも声をかけております。私たちがやっているのは、マウンテンバイクを使った各避難所への情報の伝達や物資の運搬をしております。そして、町内の要援護者、お年寄りや障がいを持たれている方の世帯に行き、安否確認をしております。

続いて、ボランティアセンターみずほと共催して、夏休みに子供たち向けの自転車でまち探検というのをやっています。瑞穂町の身近な自然を感じていただいて、自然歴史文化などを巡るような半日のツアーで、回廊計画のルートの一部も入れています。子供たちを平地林のサイクリングにつれていくと、みんな喜びます。緑がいっぱいだねとか、冒険しているみたい、いろんな音や匂いがするなど、エキサイティングな気持ちになっています。ただ、もう一つ、悪いことは言いたくありませんが、子どもたちにアンケート取ると、ごみがすごい落ちている、ごみ拾いをしたい、森がジャングルのように怖かった、というような意見も出ています。実際に、子どもがごみを拾いたいとなった時には、私たちはどうしたらいいかという思いを持ちながら活動していますが、これをなんとか町と話をしながら、子どもたちの思いも果たしたいなと思いました。凄く素直な意見だと思います。ごみを捨てた人を見つけて警察に教えるといったような、熱い思いをもった子どももいます。

話が少し逸れますが、あきる野市で郷土の恵みの森構想というのがございます。その一つで、菅生の森づくり協議会が産学公の試みで森づくりをしています。チェーンソーや刈り払い機とか、野外活動をする上で安全に配慮しなければいけないので、必ず講習を受けていただいています。森林レンジャーあきる野の会長から学びながら、交流講座から技術を身に付けています。技術を瑞穂、武蔵村山、青梅など、いろいろなところで活かしていきたいなと思っています。活動を続けていく中で、森の中に平地があるんですが、そちらにマウンテンバイクの体験コースを作りまして、ボランティアが作業したあとに走らせてもらえるような場所を作らせてもらいました。私たちはワーク&ライドと言っていますが、ただボランティア活動をするだけではなくて、走りも楽しむ。もしくは、走らなくても、その雰囲気を楽しむ。基本的には半分は楽しむような遊びを入れて、活動しております。市の広報を使って、親子で体験マウンテンバイク教室というのを行っています。マウンテンバイクに乗るだけではなくて、森の整備の話や整備体験をしてもらって、非常に人気のプログラムでして、毎回広報でお知らせすると、1日でいっぱいになってしまいます。キャンセル待ちが倍以上います。こういったことを瑞穂でやっていきたいなと思っております。あとはマウンテンバイクに乗るだけではなくて、安全やルール、マナーを子どものうちから教えています。

私たちは、このような色々な活動をしてきて、それを瑞穂で活かしたいとっていて、平成25年に瑞穂町の協働を考える会議というものが立ち上がりまして、地域課の職員さんから私の方に委員の依頼がありまして、喜んで引き受けました。協働の話聞いて、お互いが持てるものを活かし合い、平地林や狭山丘陵といったように瑞穂町には点在している森があるので、そういったところの活動につなげられるんじゃないかなと思っていました。平成27年からは、まちづくり推進委員会になりましたので、その時に平地林の話をして、町の職員からは、それは難しいのではないかという話が出ました。そこで、何が問題なんです

か、と会話をしていく中で、親身になって答えていただけたんですね。問題を解決するためには、どのようにすればいいかを一緒に考えてくれたので、いい流れができてきたなと思いました。そんな中、協働フォーラムというものが開催されることになりまして、その時にモデル事業を作ったほうが協働を教えやすい、伝えやすいということで平地林の話をしてみました。各委員さんもやってみようとなり、同時に他の委員の方もサロン作りをやることになりました。実際に平地林の整備を進めていく上で、私たちボランティア団体が土地の地権者に整備させてくださいと言っても、誰だかわからない。なので、地権者との交渉コーディネートを役場の建設課、地域課にやっていただきました。そして、瑞穂町自然科学同好会との橋渡しを地域課にやっていただきました。自然科学同好会というのは、40年ほど瑞穂町、狭山丘陵の自然に関する調査をやっていて、いろんなノウハウを持っている方たちがいらっしやいます。そういった方たちからアドバイスや指導をいただきながら、一緒に瑞穂の自然を守りたいなという思いから話したところ、町のほうで橋渡しをしていただきました。そして、作業するには、道を通っていかなければならないので、道に落ちているごみを片付けたい、そんな時には役場の環境課に協力していただきました。現場の作業は住民ボランティア団体だけではなくて、役場のほうからお手伝いいただいて、みんなで話しながら楽しくやっています。非常に遊び心があって、町の方も協力してくれて、いい流れかなと思いました。活動内容ですが、春夏は下草刈りを中心に行います、1年通しては常緑低木の伐採、ヒサカキや藪の木など。夏の暑い時にも長袖長ズボンでやるんですが、みんなで汗をかきながらやります。なんでかと言いますと、夏を頑張ると秋冬の落ち葉かきを明るい森の中でできて、エコスタックという落ち葉溜めを作ります。子どもはこれが大好きで、大人も楽しみながら、いずれは焼き芋を焼きたいねと話したり、カブトムシの幼虫が出てくるんじゃないかなと思っています。2018年は9回活動しまして、イベントは3回開催しました。作業しているだけではなくて、定期的に学びを取り入れて、瑞穂町の自然や生物に関する勉強会の実施をしております。これは郷土資料館の学芸員の谷亀さんに協力をいただいています。あとは、瑞穂自然科学同好会の村山さんには、瑞穂の昔の話や狭山丘陵と平地林のことを教えていただいて、本当にこの歳になっても学びがあることが楽しいなと思いました。この時は住民と町外の方と役場の方が集まりました。活動していく上で、成果があるだけではなくて、様々なハードルがあります。車を停める場所であったり、かつては長岡会館をお借りしていたんですが、活動場所まで距離が少しありますので、今では長谷部園芸さんが敷地を貸してくれています。活動後はみんなで瑞穂野菜を使ってご飯を食べます。僕らが集めた落ち葉がたい肥になって、いずれ地元の農家さんに使ってもらえたらいいなと話しながら、瑞穂の野菜を食べています。料理していただいているのは、福生に玄米ご飯とお酒というナチュラルな食材を使って体に良いものを提供して下さるお店があるんですけど、そちらの方にも一緒に整備していただいて、交流しながら食べ物を提供していただいています。それから、作業するには道具が必要になりますが、菅生のほうには道具が置いてあり、マウンテンバイクの人たちがどうして作業する道具を持っているんだろうと思うかもしれませんが、僕たちは自分たちで遊ぶ場所を自分たちで守り、つないでいき地元の方と一緒に楽しむというコンセプトがあります。道具は会で助成金などを活用して揃えています。ただ、置いてあるのはあき

る野市なんですね。あきる野市に毎朝取りに行って、活動終わった後に戻しに行くというのは大変ですので、できればイベント日以外にも整備に入りたいので、近くに倉庫とか休憩場所が必要だという話になりました。メンバーの中に長谷部園芸さんの親戚の方と知り合いの方がいて、畑の一部にテントをいきなり立ててくれたんですね、みんなが頑張っているなら、子どもたちも頑張っているなら、ということでテントを立ててくれて、倉庫は会のメンバーで設置して、あとは中身がないので、道具を調達していかなければなりません。道具があれば、みんな手ぶらでボランティアに来れますので、参加する敷居が下がります。

里地の循環型社会を目指してということでやっていますが、私たちは正直、森で遊ぶということを考えています。ただ、瑞穂町の昔あった人々の生活を蘇らせたいなど。自然と人間がお互い活かし合っていた時代に戻したい、そして現代にあった形で在りたいと思っています。

草刈りをしたり、落ち葉かきをしたり、いろんなことをしていると夏にきのこがたくさん出てきました。食べられるのかなと思って、学芸員の方に聞いてみたら、食べられないと言われ、少しがっかりしました。でもその時に言われました、このきのこはみんなが綺麗に整備活動をやっているから出てきたんだよ、このきのこは樹木を生かして、木は光を取り入れてきのこに送る、きのこは養分を木に送って病気から守っている。どういう事ですかと聞いたら、根っこでつながっているそうです。衝撃でした、見えないところでつながって生かし合っている、こじ付けみたいになってしまいますが、協働もそうじゃないかなと、町内会もそうじゃないかなと。見えないところでいろんな人が動いて、いろんな人が助け合っている、これはきのこ一緒じゃないかなと。遊びの中から、このような話が出てきたということで、50歳にして、やる気が上がってきました。まちの為だけではなくて、自分の為、子ども為につながります。

写真をご覧ください。子どもたちは寝転がっています。なんで寝てるのと、子どもたちに聞きました、そうすると、森の音が聞こえたそうで、風の音や落ち葉が擦れる音が聞こえると。私も寝転がってみると、いろんな音や匂いを感じ取ることができて、子どもから気づきや楽しむことを教えてもらいました。話が長くなりましたが、子ども、大人、お年寄り、みんながつながる場所、平地ということで障がいを持たれている方も入ってこれるような場所だと思っています。それをいろんな人の力を借りながら、楽しみながら活かし合っていくと、いいのではないかと。先程のような気付きは、大人になっていくと分からなくなってしまったり忘れてしまったりすることを学べる場だと思っていますので、できれば一人でも多くの方に活動に参加していただく、もしくは興味を持っていただけたらと思います。今日は平地林以外にもたくさんのブースが出ていますので、このフォーラムが終わりましたら、ブースのほうに行っていていただいて質問などしていただけたらと思います。それから、バースアイも見てもらって自分の住んでいるところを探してみるのもいいんじゃないかなと思います。私の発表は以上になります。ありがとうございました。

(司会・小山委員) 中沢副委員長ありがとうございました。それでは質疑に入りたいと思います。質問のある方は挙手をお願いします。

<質疑なし>

(司会・小山委員) それでは、ブースのほうで、後ほどお立ち寄りいただければと思います。中沢副委員長ありがとうございました。

続きまして、最後に井上委員の事例発表の準備をいたしますので、しばらくお待ちください。お待たせいたしました。瑞穂町協働のまちづくり推進委員会井上委員による活動事例発表を始めさせていただきます。井上委員は、瑞穂町の新規就農者であり、昨年度から推進委員として協働に関わっていただいております。他にも、JAにしたま青壮年部に所属している中で、平成29年度に開催された「青年の主張発表大会」では講演を行い、また、農業に関するイベントを開催するなど、多岐に渡り、ご活躍されています。それでは、「狭山池上流部をひまわり畑に」の活動事例発表です。よろしくお願いいたします。

協働事例発表 (井上委員)

(井上委員) 皆さん、こんにちは。只今ご紹介いただきました、井上と申します。自己紹介から入らせていただきたいんですが、7年前に瑞穂町に越してきました、新規就農者として農業をやらせていただいております。売り先は幼稚園やレストラン、スーパーを中心に販売させていただいております。何か他のネタがほしいなと思って、毎年空いている畑にひまわりを作って油を搾るというイベントを5年くらい前から行っていました。今回の発表につながるんですが、瑞穂町の回廊計画というものがありまして、その中の花いっぱいプロジェクトという企画があり、プロジェクトの一環として、町と一緒に空いている畑を活用して、約4反の畑をひまわり畑にする活動をしています。狭山池上流部がどういうところかと言うと、水が湧いてきてなかなか畑に適さない土地で、20年以上使われていない畑があるのですが、回廊計画の景観という部分で花を見せたいということでやっています。4反の畑を一人で管理するのは、かなり大変なことなので4つの農家を誘って4人で畑をまわしています。何をやっているかと言うと、ひまわりを作って、最終的に農家なので食べるころまでやりたいと思っています。2年前から活動していて、使われていなかった畑を農地に再生して使うということをしています。1年目の畑はごみがたくさん入っていて、雑草も多くて畑にできないほどだったんですけど、2年目はごみを拾って綺麗にして使えるようにして、地域の方の協力も得て障がい者施設の方たちと一緒に種を蒔いたり、ボランティアや役場の方にも積極的に参加していただいて、種を蒔きました。1年目は雑草がひどくて、なかなかひまわりが育たなかったんですが、2年目になると雑草が抑えられて、畑として使っていると土地として良くなっていくという良い例だと思います。

1年目は水が湧いてきて使えない部分というのがあって、かなり苦労しました。2年目は役場と話し合いまして、30cmの厚さでウッドチップを敷いております。これも企業に協力してもらって、本来であればお金がかかるんですが、2t車で何十台という量のチップを蒔いてもらいました。なので2年目からはかなり楽をして雑草の管理をしています。

1年目は草刈りを一生懸命して、ようやく開花したんですが、2年目になると、しっかりとひまわり畑になっています。1年目は蒔いた種の半分以下しか咲いていなくて、失敗なのか成功なのかという感じでした。2年目になると、ようやく周りの方にも、イベントをやっているという認知がされてきて、夏に花見をしながらご飯を食べるイベントを行い、協賛してくれた料理屋を呼んで振る舞ってもらい、花を持って帰ってもらうということをしました。最終的に、ここは重要なことですが、農家がやることなので食まで考えて、枯れたひまわりの種取りをボランティアの方とイベントに賛同してくれる方、みなさんで行って、最終的に業者に送り、搾油機で油を搾って、油を作ります。協力してくれた方には1本ずつ配って、余りは販売しています。去年は30本ほどしか作れなかったんですが、今年は350本ほど作りまして、レストランなどで使っていただいています。まだ、数が少ないので問い合わせがあった方に販売するという形をとっていますので、興味のある方は声をかけていただければお売りすることもできます。作ったからには、食べてみないと、ということで参加してくれたみなさんと呼んで、試食会を行いました。今回は3品種3種類作ったので、いろんな味を楽しめて、1年の成果を食べることで振り返りました。ラベルも専門のデザイナーさんに作ってもらって貼って、販売しています。

農家だけで、宣伝からラベル作りから、お金も時間もかかるので、補助金や西多摩農協壮青年部を巻き込んで、お金の面は都の補助金を使って、人が足りないところは壮青年部から出してもらって、イベントを開催していました。今年は2年目ということで、去年苦労したことを改善して、種を蒔いた分だけ花が咲いて、毎年良くなってきています。今年も3月から種を蒔いて7月に花見をして9月10月で種取りをして年内に油を搾るというのをやりますので、興味がある方は、告知をいたしますので、声をかけていただければと思います。ちなみに今年ひまわりだけでは畑がもったいないということで、今は菜の花が植えられています。3万や4万ぐらい種を蒔いてあるので、良かったら見に行ってもらえればと思います。場所は役場に問合せいただければ、わかります。あとブースにも僕はいますので、聞いてもらえればお教えします。ブースには油も置いてありますので、ぜひご覧ください。これで発表を終わらせていただきます。

(司会・小山委員) 井上委員ありがとうございました。それでは、質疑応答に入ります。質疑のある方は、挙手をお願いします。

(質問者) 3年目はひまわり油を何本ぐらい作る予定ですか？

(井上委員) 一応目標があって、4つの農家でやっていて、1農家あたり100本という目標でやっています。売り行きも結構良くて、販売も好調なので来年はもう少し増やしてみようかなという考えでいます。

(司会・小山委員) 井上委員ありがとうございました。他に質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。なければ、これで終了とさせていただきます。井上委員ありがとうございました。

した。

(事務局・栗原) それではここで司会を代わらせていただきます。私は地域課の栗原と申します、よろしくお願いします。最後に、協働のまちづくり推進委員会の委員を紹介させていただきます。委員の皆さま、前にお集まりください。

委員紹介

(香取委員長) 順番に自己紹介をさせていただきます。委員長を務めさせていただいています香取幸子と申します。自営で飲食関係の仕事をしておりまして、今日は耕心館のところでお弁当を出させていただいております。お昼ご飯に、もしよろしかったらどうぞ。ありがとうございました。

(中沢副委員長) 先程はありがとうございました。中沢です。協働というと難しい意味かもしれませんが、何かやってみたい、何かできないかなというのがあったら、町の地域課に相談に行くと、気軽にいろいろ教えていただけるので、ぜひやってみたいという方は地域課に行ってみてください。また、私に聞いていただいても、いろんなことにお答えできます。各ブースもありますので、顔を出していただけたら幸いです。よろしくお願いします、今日はありがとうございました。

(小松委員) 先程はありがとうございました。瑞穂町バスケットボール連盟の小松と申します。先程長く喋ってしまいましたので、今回の挨拶は手短に。本日はありがとうございました。

(井上委員) 慣れていない講演ということで、たどたどしかったと思いますが、こういった機会があれば、またやってみたいと思います。井上でした。今日はありがとうございました。

(石川委員) 障がい者の方のグループホームをやっております、すだちの石川と申します。よろしくお願いします。

(豆田委員) 二本木に住んでおります、豆田と申します。ヒッポファミリークラブの活動を瑞穂町で主催しております。赤ちゃんからシニアの方まで、いろんな環境を作って、赤ちゃんのように言葉を身に付けていこうという活動をしています。ブースを出していますので、よろしかったらお立ち寄りください。ありがとうございました。

(小山委員) ボランティアセンターの小山と申します。先程、委員長の話にもありましたが、今日は居場所づくりのサロンに関する展示をさせていただきます。よろしくお願いします。

(田中委員) 高根市をやっております田中と申します。高根市は毎月第4土曜日の朝9時から10時半まで、地元でとれた新鮮野菜等を販売していますので、もし時間がありましたら、高根市の方にも来ていただければと思います。よろしくお願ひします、今日はどうもありがとうございました。

(事務局・栗原) 委員の皆様ありがとうございました。席にお戻りください。本日は、皆様お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。協働について少しでも、理解していただき、興味を持っていただけたら、幸いです。本日の活動発表のような、町民と町が協力して多くの協働活動がもっと盛んに行われるようになりましたら、瑞穂町がより良いまちになって、さらに魅力のあるまちになっていくのではと感じました。何かやってみたい、やりたいというのがありましたら、気軽に地域課まで、ご相談いただければと思います。

また、受付でお渡しした封筒の中に、アンケートがございますので、ご記入いただき、受付の回収箱に入れていただきますようお願いいたします。その際、鉛筆の返却もお願いいたします。この後は、15時半まで活動事例のパネル展示をやっていますので、ぜひお立ち寄りください。それでは、以上をもちまして、「瑞穂町協働フォーラム2019」の活動発表の部を終了させていただきます。ありがとうございました。

アンケート集計結果

※回収数17枚

1. どのように今回のフォーラムをお知りになりましたか

・フォーラムちらし	2
・広報みずほ	2
・SNS（フェイスブック、ツイッターなど）	1
・友人、知人からの紹介	9
・みずほケーブルテレビ	0
・その他（町ホームページなど）	4

2. 今年で4回目のフォーラム開催でしたが、何回目のご参加ですか

・はじめて	9
・2回目	5
・3回目	3
・4回目	0

3. ご参加いただいた理由をお教えてください（複数回答可）

・協働事例発表のテーマに興味があった	9
・協働について知りたかった	4
・友人、知人からの紹介	4
・けやき館という場所が行きやすかった	3
・つるし雛目的で来た	4
・その他	0

4. フォーラムの構成について、必要だと思うものはなんですか

・専門講師による基調講演	9
・委員による活動紹介の発表	8
・協働パネル展示	6
・フォーラム参加者と委員のグループワークや会話の機会	5
・その他	0

5. あなたはフォーラムで活動紹介を行ってみたいですか

- ・発表できない（発表するような活動を行っていない） 7
- ・発表してみたい 2
- ・推薦したい団体がいる 1
- ・その他 0

6. 今回のフォーラムについて、感想をお聞かせください

- ・満足する内容であった 6
- ・継続してフォーラムを開催してほしい 13
- ・会場を別の場所にしてほしい 1
- ・次回は参加しないと思う 0
- ・その他 0

7. 自由回答欄：つるし雛との合同開催について、次回フォーラムで聞きたい内容等

- ・つるし雛と同時開催のおかげで一時に両方見て聴けて良かった。次回も今回発表された活動のその後を聴きたいです。新たな活動も増えていると良い。
- ・つるし雛との合同開催が良いと思います。
- ・つるし雛に立ち寄った際に行っていたので、入ってみました。
- ・ひまわり畑の継続的な成果、変化を紹介していただきたいです。
- ・事例紹介は分かりやすくて良い。
- ・町が考えている協働のプラン。他県の協働の事例について。
- ・それぞれの方々が素晴らしい活動をされているので、活動関係者以外の来場者をもっといいのではないかと良いと思いました。
- ・一部ありましたが、役場からの発表、協働についての総括的なものもあっていいのではないかと。
- ・今年は前回と違う内容で良いです。